

吉川町教育委員会

「ふれ。ふ開拓運動」児童調査報告書

2005年

大島町教育委員会

富山県射水郡大島町

## 三ヶ・本開発遺跡 発掘調査報告

2005年

大島町教育委員会

## 序

この報告書は、大規模商業開発事業に伴い、大島町が平成15年度に調査を実施した三ヶ・本開発遺跡の発掘調査報告であります。

三ヶ・本開発遺跡は、中世の埋蔵文化財包蔵地であった三ヶ遺跡と今回の発掘調査に先立つ事前調査により新たに確認された本開発遺跡とが統合され、範囲・名称が変更された遺跡であります。三ヶ・本開発遺跡として初めて発掘調査を実施した今回の調査では、弥生時代の遺物が多く出土したことから、中世以前のこの地の集落の姿などを探るうえで貴重な資料が得られました。

本書はささやかな一書ではありますが、歴史研究・郷土学習の資料として広く活用され、私達の共有財産である文化財の保護と普及啓発に少しでも貢献することができれば望外の喜びです。

---

終わりに、発掘調査に際し、ご理解とご協力を賜りましたイータウン株式会社・地元住民の皆様、ならびに関係諸機関の方々には深く感謝申し上げます。

平成17年3月

大島町教育委員会

教育長 亀 谷 慶 英

## 例　　言

- 1 本書は、民間大規模商業開発事業に先立ち実施した、富山県射水郡大島町本開発地内に所在する三ヶ・本開発遺跡の発掘調査報告である。
- 2 調査は、イータウン株式会社に委託を受けて、大島町教育委員会が実施した。
- 3 調査事務局は大島町教育委員会教育課に置き、学芸員田中明が調査事務を担当し、教育課長北本宗則が総括した。
- 4 調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。  
調査期間 平成15年度 平成15（2003）年11月4日～平成15（2003）年12月18日（実働19日）  
調査面積 1,000m<sup>2</sup>  
調査担当者 大島町教育委員会 教育課 学芸員 田中 明
- 5 本書の編集・執筆は、調査担当者田中がこれにあたった。
- 6 本書の挿図・写真図版に用いた方位は座標北、水平基準は海拔高である。なお、遺構の標記にあたっては略号を用いた。使用した略号は下記のとおりである。  
S D：溝・河川、S K：土坑
- 7 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 8 本遺跡の出土遺物や記録資料は、大島町教育委員会が一括して保管にあたっている。
- 9 現地調査にあたっては、社団法人大島町シルバー人材センターの協力を得た。また、イータウン株式会社、株式会社竹中土木から調査事務所・重機・調査器材等について多大なご協力を頂いた。記して厚く御礼申し上げる。
- 10 遺物整理の参加者は下記のとおりである。（五十音順・敬称略）  
楠井悦子・坂井ゆかり・坂下雅代・高瀬直子・竹鼻梓・大門育子・塚原望・中平乃理子・官林恭子

## 目　　次

第1章 位置と環境 .....	1
第2章 調査の経緯と経過 .....	2
第1節 調査に至る経緯 .....	2
第2節 調査の経過と方法 .....	2
第3章 調査の概要 .....	4
第1節 地形と層序 .....	4
第2節 遺構と遺物 .....	4
第1項 A地区 .....	4
第2項 B地区 .....	5

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	1	
第2図 調査区位置図	3	
第3図 基本層序模式図	4	
第4図 遺構実測図〔A・B地区〕	6	
第5図 遺構断面図〔A地区〕	S D01～S D03 S K01 S K03 S K05 S K13 S K17～S K21 S K24～S K26 S K29 S K42	7
第6図 遺構断面図〔B地区〕	S D04～S D06 S D09 S D11 S D12 S D15 S K44 S K45	8
第7図 遺物実測図〔A地区〕	S D01 S D02 S D03	9
第8図 遺物実測図〔A地区〕	S D03 S K01 S K02 S K21 S K25 S K26 S K42 包含層	10
第9図 遺物実測図〔B地区〕	S D04 S D05 S D12 S K45	11
第10図 遺物実測図〔B地区〕	S K45 包含層	12
第11図 遺物実測図〔B地区〕	包含層	13

## 表目次

第1表 遺物観察表（1～30）	14
第2表 遺物観察表（31～60）	15
第3表 遺物観察表（61～87）	16

## 図版目次

図版1 遺構全景	[A・B地区]
図版2 溝・土坑	[A地区] S D01～S D03 S K03 S K05 S K21 S K26 S K29
図版3 溝・土坑	[B地区] S D04～S D06 S D09 S D11 S D12 S D15 S K44～S K46
図版4 出土遺物 土器	[A地区] S D02 S D03 S K02 S K21
図版5 出土遺物 上器・石製品	[B地区] S D04 S K45 包含層

# 第1章 位置と環境

大島町は、富山平野を東西に分ける具羽山丘陵の西側に位置し、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である射水平野の西部に位置している。西は高岡市、東は小杉町、南は大門町、北は新湊市に隣接している。大島町域は東西に長い楕円形を呈し、東西約4.4km、南北約3.2kmで総面積7.85km<sup>2</sup>である。また本町は、富山・高岡両市と至近距離にあり、交通の便にも恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進み人口が増加している。

遺跡が立地する射水平野は新生代第四紀沖積層であり、その大半が繩文時代前期に発生した縄文海進期に、放生津潟（現富山新港）が射水丘陵付近にまで入り込み、現地形で標高5m以下の町の大部分は海面下に没していた。その後、河川の流れが平野部で濁り、沼沢地を形成した。湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、低湿地帯が広がる射水平野を形成していった。

三ヶ・本開発遺跡は、大島町本開発と小杉町三ヶの両地区にまたがる遺跡である。大島町東部に位置し、神楽川と下条川に挟まれた立地である。標高は5m前後を測り、現況は平坦地となっているが、今回の調査区のみから弥生時代の遺物が出土することから、微高地状の環境にあったと考えられる。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡（1/25,000）

1. 三ヶ・本開発遺跡
2. 水上・本開発遺跡
3. 新開発遺跡
4. 熊野神社遺跡
5. 赤井遺跡
6. 八塙土田遺跡
7. 八塙C遺跡
8. 八塙A遺跡
9. 八塙B遺跡
10. 小林南遺跡
11. 馬取遺跡
12. 小林遺跡
13. 南高木B遺跡
14. 南高木A遺跡
15. 北高木遺跡
16. 小島遺跡
17. 中野B遺跡
18. 中野A遺跡
19. 中野北遺跡
20. 若杉遺跡
21. 北野B遺跡

## 第2章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

平成13年4月、大島町教育委員会は民間の商業開発業者から、大規模商業施設敷地造成を目的とした大島町本開発地内の開発行為の届出を提出するに際して、埋蔵文化財包蔵地の有無、その取り扱いについて照会を受けた。これに対し町教育委員会は、当該申請地が周知の遺跡である三ヶ遺跡の隣接地であることから、事業計画地約107,600m<sup>2</sup>を対象とした分布調査を実施することとなった。

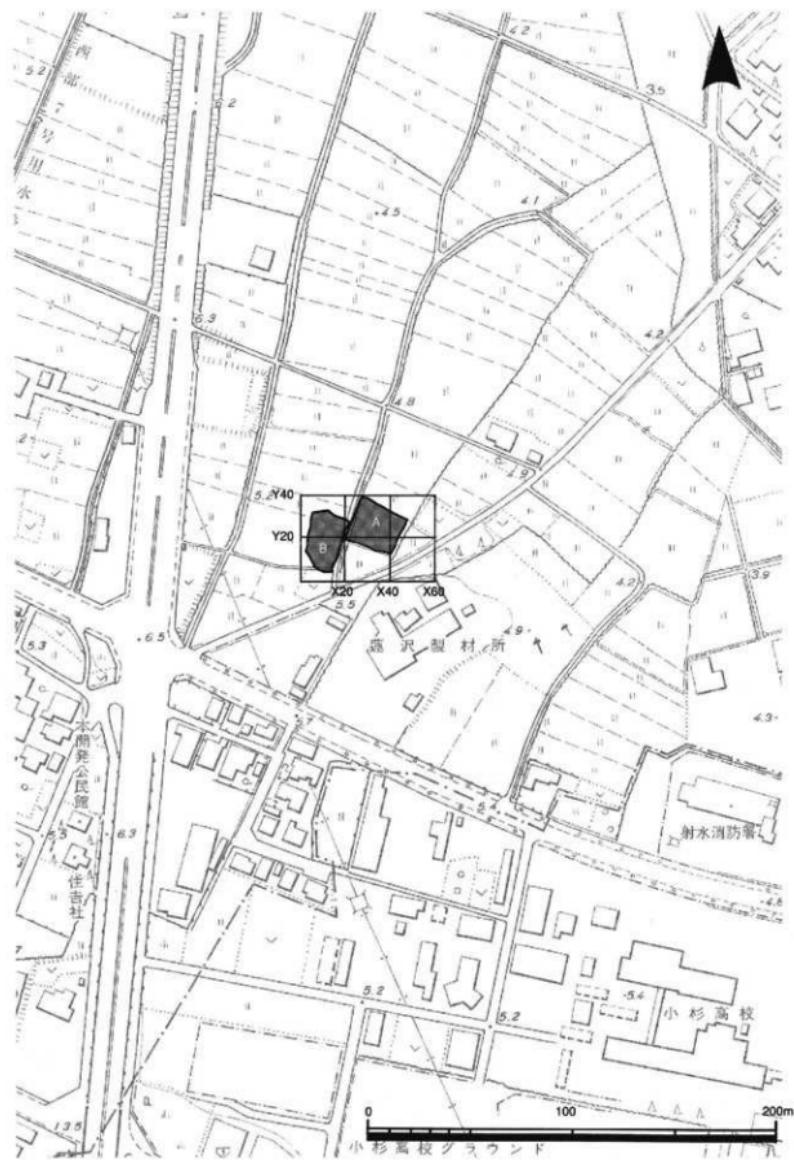
平成13年4月中旬、町教育委員会は事業計画地内を踏査し、分布調査を実施した。調査の結果、対象地のほぼ中央域から南側にかけて遺物が採集され、当該地の南東に隣接する三ヶ遺跡がさらに北西側、事業計画地のほぼ半分に広がるものとして捉え、遺跡名を三ヶ・本開発遺跡と改めた。この結果をもとに関係者間で再度協議を行い、遺跡の範囲及び遺存状況等の確認を目的とした試掘調査を実施することで合意した。

試掘調査は、町教育委員会が調査主体となり、平成14年8月に実施した。調査は対象面積約33,700m<sup>2</sup>に44本の試掘トレーナーを設定し、重機及び人力により地表面下20~80cmの遺構面まで掘り下げ、遺物包含層と遺構の有無を確認した。試掘調査による発掘面積は1,240m<sup>2</sup>で全体の4%であった。調査の結果、試掘対象地のほぼ全域から遺構・遺物が確認された。遺構のほとんどは近世・近代の自然流路や農業用排水の可能性が強く、遺物も遺構に伴わない散発的な出土に過ぎなかったので、本調査の必要はなしと判断した。しかし、試掘対象地内の南端一角より、遺物を含む良好な遺構が遺存しているのが確認されたため、事業者に調査結果を報告するとともに、遺跡の保護措置について関係者間で協議を重ねた。協議は、本調査が必要となる4,300m<sup>2</sup>に、掘削等の土木工事により遺跡に影響を与えないものへの計画変更の策定を進める方向で進められた。その結果、3,300m<sup>2</sup>においては現状保存が可能であると判断し、今回の本調査範囲から除外することで合意に達した。しかし、残り1,000m<sup>2</sup>においては計画変更による現状保存は困難と判断し、記録保存を前提とした発掘調査を実施する方向で協議を進めた。平成15年度に入り、1,000m<sup>2</sup>を対象として本調査を実施することで、事業者との協議事項がすべて合意に達し、11月より発掘調査に着手することとなった。

### 第2節 調査の経過と方法

調査対象地は、周囲を造成工事の仮設道路に包囲されていて、調査で掘削した排土の置場が確保できなかつたため、調査区を二分割し、便宜上A・B地区として調査を進めることにした。

発掘調査は、まず試掘調査の結果をもとに人力掘削の事前準備として重機による表土・耕作土の除去を、調査員立ち会いのもと行った。その後、調査対象地の区画にあわせて10m間隔に測量基準杭の打設を行い(第2図)、X軸を東西にY軸を南北に1×1mを一区画とした調査区を設定した。続いて、遺構確認面の精査、遺構の検出を行った。検出した遺構にはマーキングを行い、平板測量による遺構概略図を作成した。次に、遺構に便宜上の番号を設定し、各々の遺構に適宜、土層観察用の柱を残し掘削を開始した。遺構掘削後は各遺構の断面を20分の1で実測し図化を行った。遺構の平面全体図は航空写真測量を行った。各遺構の断面写真は35mmカメラで、遺物出土状況や個別の完掘写真・プロック写真はプロニード版もあわせて撮影した。調査区の全景写真はラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。撮影終了後は最終レベルの確認・記録、遺物の採集を行った。また、空中撮影のために残しておいた柱などを取りはずし、遺構の完掘を確認し、平成15年11月4日~12月18日(実働19日)に亘る発掘調査を終了した。



第2図 調査区位置図 (1/2,400)

## 第3章 調査の概要

### 第1節 地形と層序

三ヶ・本開発遺跡は、神楽川・下条川によって形成された微高地上に位置する。現況は標高5m前後を測り、南から北に向かって緩やかに傾斜する。調査区付近は、ほ場整備等の地形改変を殆ど受けおらず、細かい田地割りが残る。古放生津渓が入り込んでいた影響で湿田が多く、最近まで湿地帯の新聞に努力した地である。

調査区の基本層序について記述する。その層序は概ね4層に区分できる。1層は褐灰色～灰黃褐色砂質土で表土・耕作土である。2層は褐灰色シルトで、酸化鉄を豊富に包含している。古代から中世の遺物包含層である。

3層はオリーブ黒色～黒色シルトで遺構検出面であり、弥生中期から古墳時代の遺物包含層でもある。4層は灰白色～灰黃色シルトで、遺物の包含が認められないため、これより下層は地山と判断する。

### 第2節 遺構と遺物

#### 第1項 A地区

##### 1号溝（SD01、第4・5・7図、図版1・2）

A地区の西側に位置する南北溝である。幅50cm～460cm、全長約21mを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。南端で交差するSK03より新しい。断面は孤状ないし逆台形を呈し、深さは3cm～20cmである。覆土は褐灰色シルトが堆積する。遺物は珠洲が出土している。第7図1は珠洲甕で、口径60cmを測る。時期は13世紀後半～14世紀中頃のものである。

##### 2号溝（SD02、第4・5・7図、図版1・2・4）

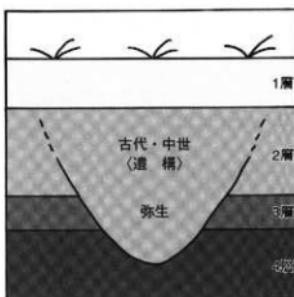
A地区の中央やや南側に位置する幅90cm～130cmの溝である。南北方向に直線的に伸び、全長約6mを検出。南端は発掘区外へ伸びるが、北端は土坑状になり消滅する。断面は孤状を呈し、深さは15cm～25cm。覆土は黄灰色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・土師器が出土している。第7図2・3は土師器甕。4は口径14.4cmの弥生土器の甕である。口端部内外面に櫛描刻み目文、胴部外面に櫛描横線文と波状文が交互に廻る。東日本に系譜をもつものか。5は口径12.3cmで口端部外面に櫛描刻み目文をもつ弥生土器甕。4～7は弥生時代中期のものである。

##### 21号土坑（SK21、第4・5・8図、図版2・4）

A地区の東南隅に位置する土坑である。調査区により、正確な外形は不明。断面は孤状を呈し、最深で33cmを測る。覆土は上層に褐灰色シルト、下層にオリーブ黒色～黒色シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第8図18は口頭部が長く、大きく外反する弥生土器甕。19は口径19.4cmで口縁部が波状の弥生土器甕。外面に煤が付着している。21は脚部がない鉢か。すべて弥生中期。

##### 26号土坑（SK26、第4・5・8図、図版1・2）

A地区の中央やや北側に位置する楕円形土坑である。規模は長軸130cm、短軸115cm、深さ16cmである。断面は孤状を呈し、覆土は褐灰色シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第8図25は弥生土器甕。口端部外面に櫛描刻み目文、櫛描羽状文が1条廻る。時期は弥生中期のもの。



第3図 基本層序模式図

## 第2項 B地区

### 4号溝（S D04、第4・6・9図、図版1・3・5）

B地区の北西側に位置する東西溝である。幅260cm～550cmで、全長約10mを検出。東端はS D05へ続く手前で土坑状になり、両端は発掘区外へ伸びる。S D05との間が土橋状になっている。途中交差するS D14・S D15より新しい。深さは25cm～60cmを測り、覆土は上層に褐灰色シルト、下層に灰色～オリーブ黒色シルトである。遺物は弥生土器・須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。第9図35は口径6.0cm、器高5.9cmの須恵器小型壺。時期は7世紀前半のものか。40は中世土師器皿。内外全面に油煙による炭化物が付着しており、灯明皿として使用されたものである。

### 12号溝（S D12、第4・6・9図、図版1・3）

B地区の西側に位置する東西方向に流れる溝である。東端はS D09へ繋がり、西端は発掘区外へ伸びる。幅36cm～90cmで、全長約6mを検出。断面は皿状を呈し、深さは6cm～10cm、覆土は褐灰色シルトである。途中交差するS K45より新しい。遺物は須恵器・土師器が出土している。

### 45号土坑（S K45、第4・6・9・10図、図版1・3・5）

S D12の南側に位置する土坑である。S D12に切られているため、正確な外形不明。断面は皿状を呈し、オリーブ黒色～黒色シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。第9図49は口径16.4cmの弥生土器壺。第10図50は弥生土器壺。口縁部内面に2条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。胸部外面は櫛描短線文、櫛描横線文が交互に廻る。時期は弥生時代中期のもの。

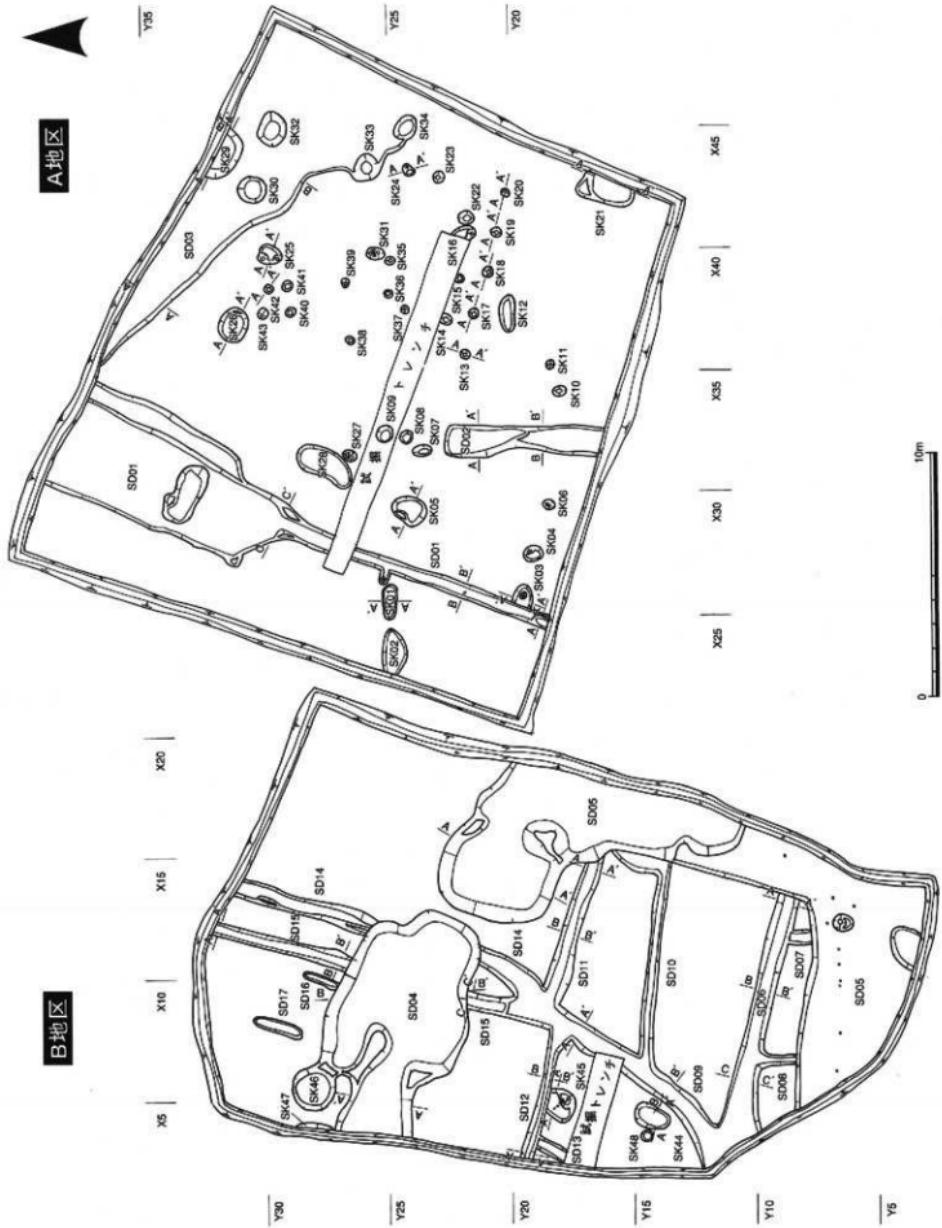
### 包含層出土遺物（第10・11図、図版5）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・珠洲・越中瀬戸・石製品が出土している。第10図60は須恵器杯B。口径16cmを測る大型品で、8世紀後半期のものである。63は3.0cm幅に御目11条の珠洲彌鉢。13世紀後半～14世紀中頃のものである。64は押圧剥離を施す凹基式の石鑓。65は磨製石斧。石材は蛇紋岩である。第11図66は口径14.6cmの弥生土器壺。口縁部内面に4条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。68は口縁部外面に1.5条の櫛描羽状文が廻り、その上に継ぎの貼付突帯が付き、垂下部は波状になる弥生土器壺である。ともに弥生時代中期のもの。

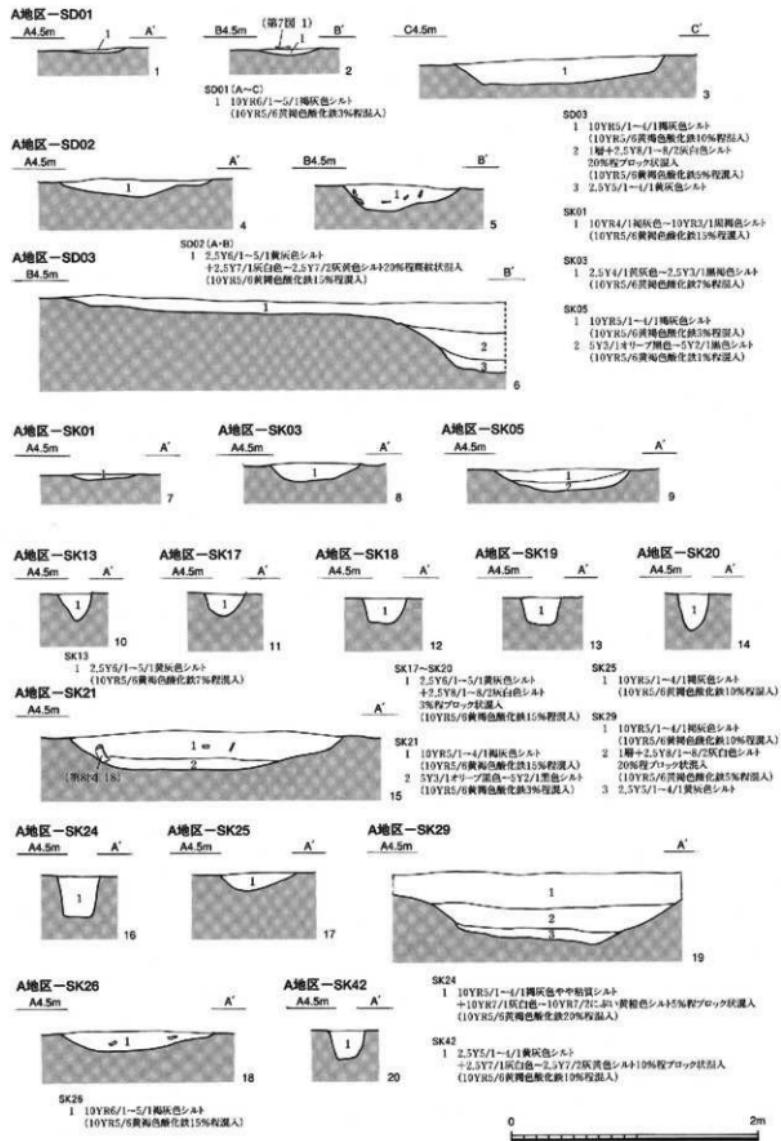
## 参考文献

- 荒井 隆他 2001 「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」 高岡市教育委員会  
安念幹倫他 1995 「北高木遺跡発掘調査報告書」 大島町教育委員会  
池野正男他 2002 「石名田木舟遺跡発掘調査報告」 富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所  
稲垣 尚美 1999 「H S-04遺跡発掘調査報告」 小杉町教育委員会  
稲垣尚美他 2003 「赤田I遺跡発掘調査報告」 小杉町教育委員会  
金三津英則 2002 「新湊市埋蔵文化財分布調査報告V」 新湊市教育委員会  
金三津道子 2004 「黒河尺日遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告」 富山県文化振興財團  
他 埋蔵文化財調査事務所  
久々 忠義 1991 「大島町荒畠遺跡発掘調査概要」 大島町教育委員会  
栗山 雅夫 2002 「木舟城跡発掘調査報告」 福岡町教育委員会  
田嶋 明人 1986 「漆町遺跡I」 石川県立埋蔵文化財センター  
田中 明 2003 「小林遺跡」 大島町教育委員会  
根津 明義 2002 「中保B遺跡調査報告」 高岡市教育委員会

A地圖



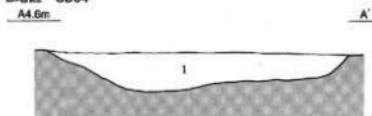
#### 第4図 遺構実測図 [A・B地区] (1/200)



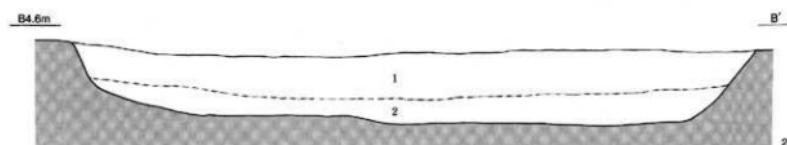
第5図 遊構断面図 [A地区] (1/40)

SD01(1~3) SD02(4~5) SD03(6) SK01(7) SK03(8) SK05(9) SK13(10) SK17(11) SK18(12)  
SK19(13) SK20(14) SK21(15) SK24(16) SK25(17) SK26(18) SK29(19) SK42(20)

## B地区-SD04

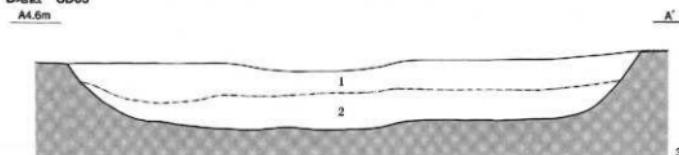


SD04 (A-B)  
 1 10YR5/1-4/1褐色シート  
 +2.5Y8/1-8/2白色シート10%程ブロック状混入  
 (10YR5/6黄褐色酸化鉄15%有混入)  
 2 5Y4/1褐色~5Y3/1オリーブ褐色シート

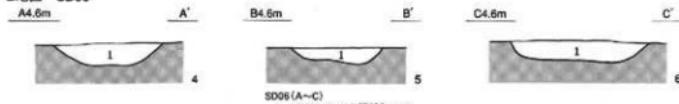


SD05  
 1 10YR5/1-4/1褐色シート  
 +2.5Y8/1-8/2白色シート10%程ブロック状混入  
 (10YR5/6黄褐色酸化鉄10%有混入)  
 2 5Y4/1褐色~5Y3/1オリーブ褐色シート

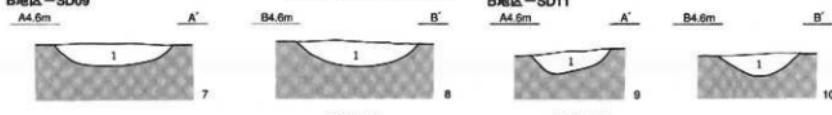
## B地区-SD05



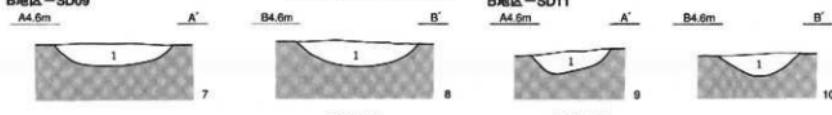
## B地区-SD06



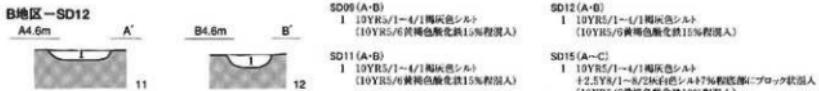
## B地区-SD09



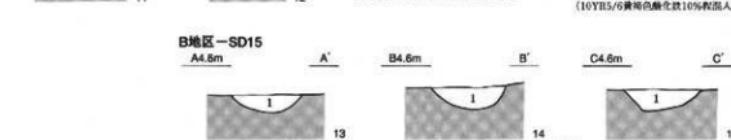
## B地区-SD11



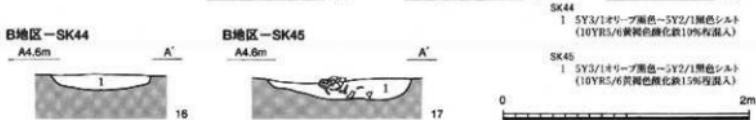
## B地区-SD12



## B地区-SD15



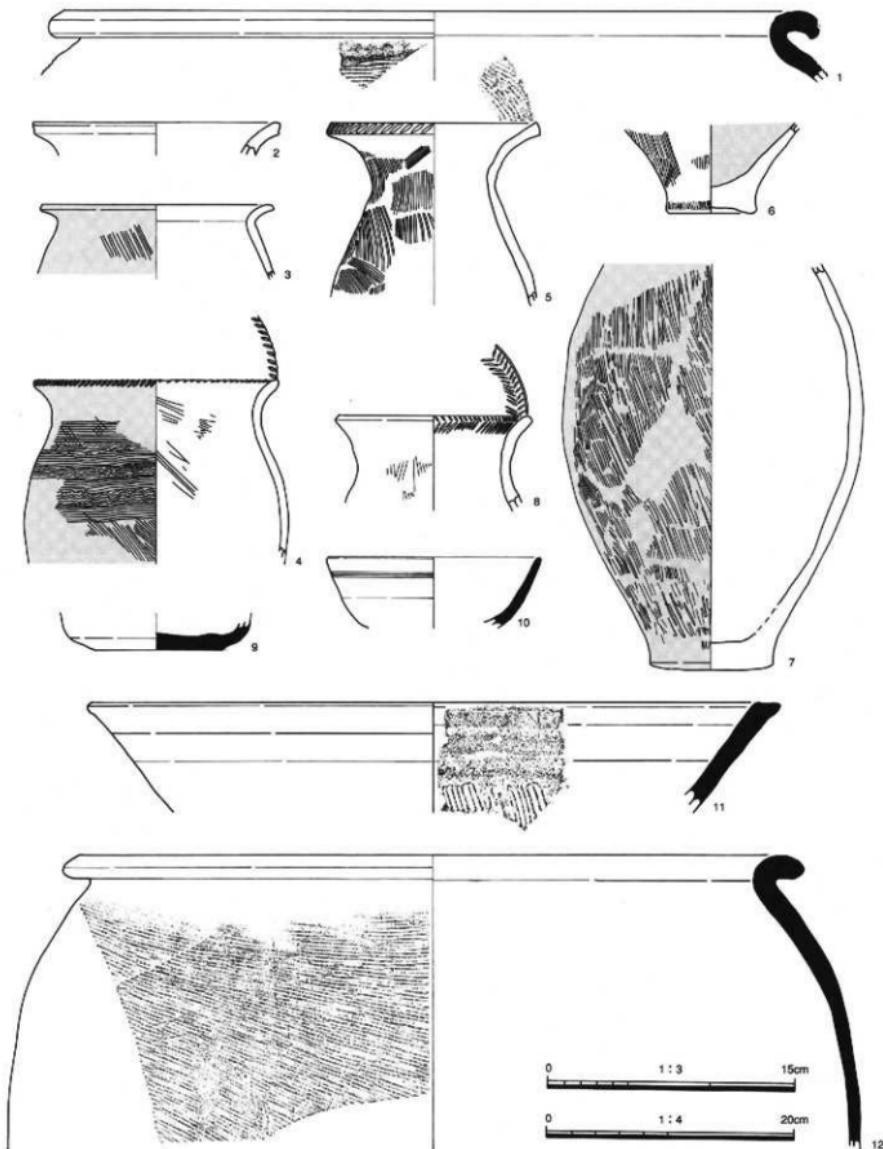
## SK44



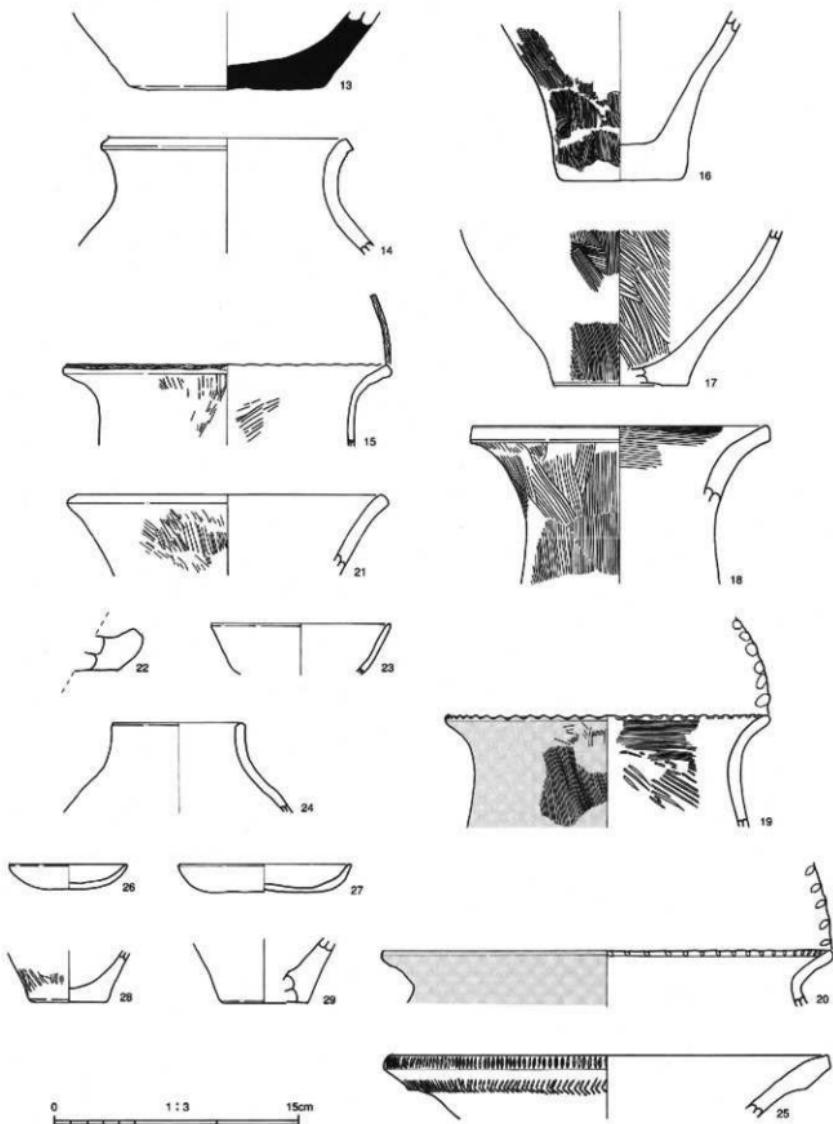
0 2m

第6図 透構断面図 (B地区) (1/40)

SD04(1-2) SD05(3) SD06(4-6) SD09(7-8) SD11(9-10) SD12(11-12) SD15(13-15) SK44(16)  
 SK45(17)

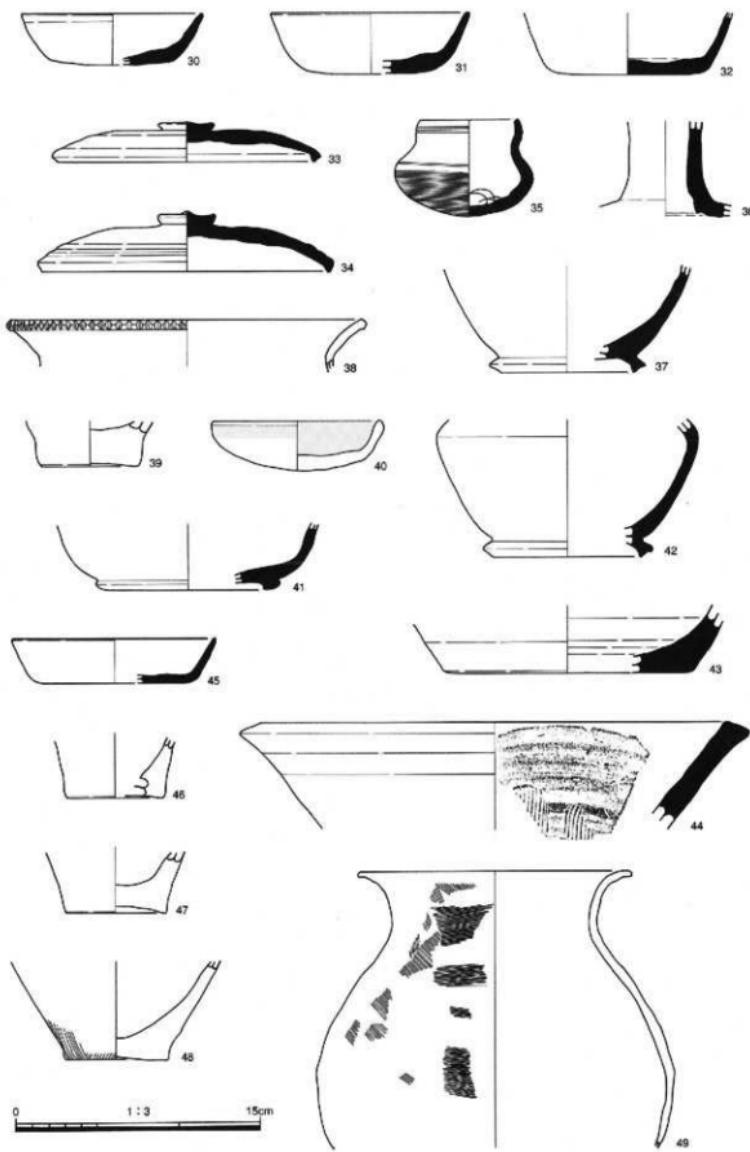


第7図 遺物実測図【A地区】(2~11 1/3, 1・12 1/4)  
SD01(1) SD02(2~7) SD03(8~12)

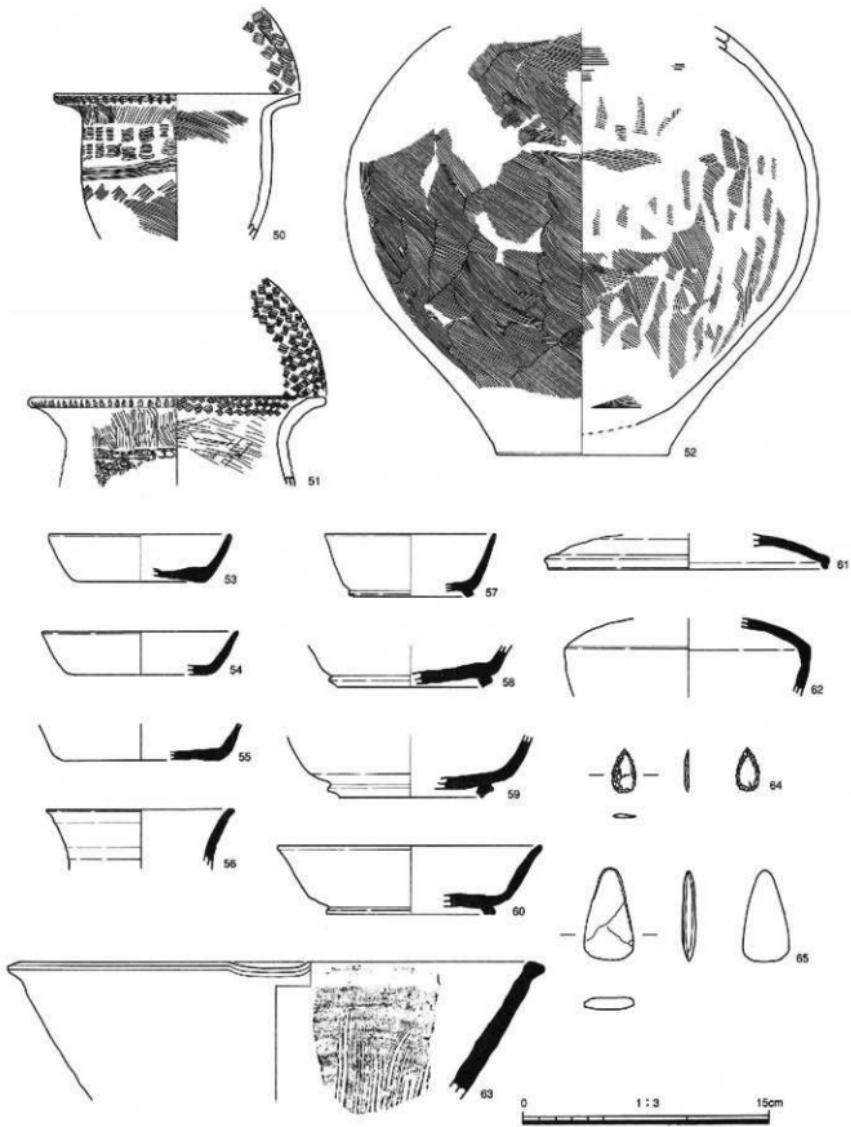


第8図 遺物実測図〔A地区〕(1/3)

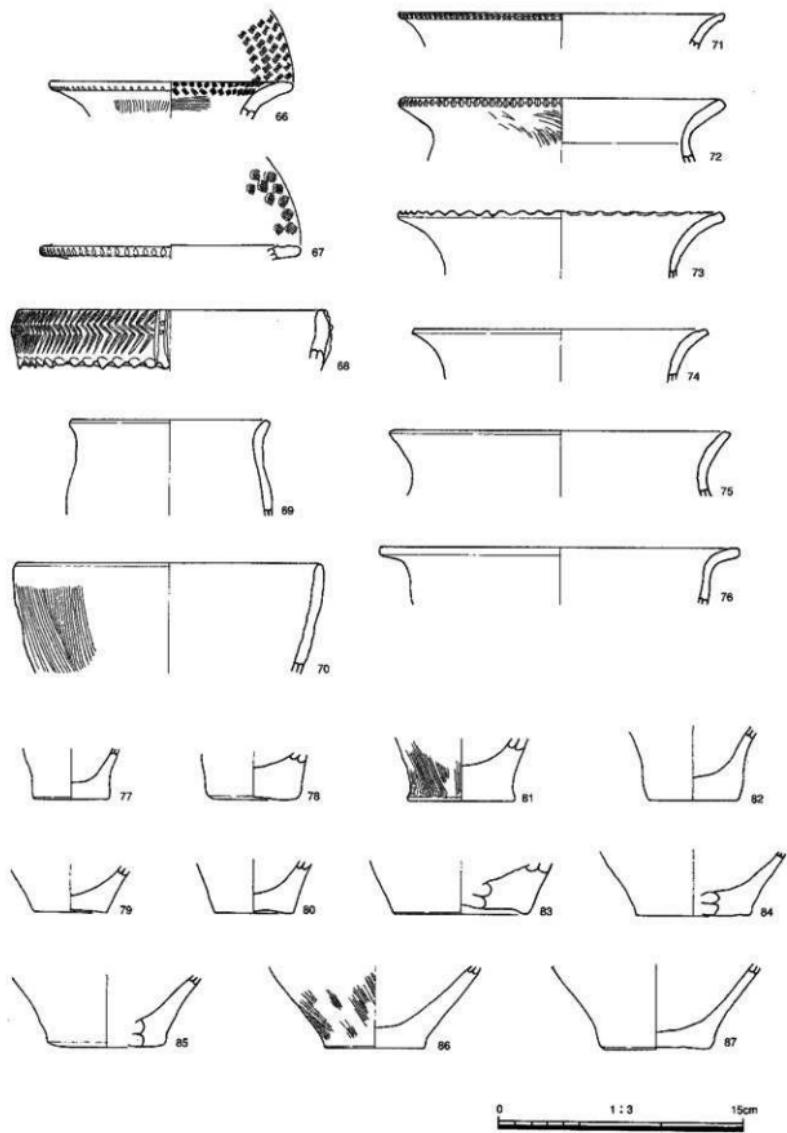
SD03(13) SK01(14~15) SK02(16) SK21(17~21) SK25(22~23) SK26(24~25) SK42(26) 包含層(27~29)



第9図 遺物実測図〔B地区〕(1/3)  
SD04(30~40) SD05(41~44) SD12(45) SK45(46~49)



第10図 遺物実測図〔B地区〕(1/3)  
SK45(50-52) 包含層(53-65)



第11図 遺物実測図〔B地区〕(1/3)  
包含層(66~87)

第1表 遺物観察表

番号	地区名	座標 X Y	遺構番号	出土層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	備考	
1	A	26	22	SD01	珠調	甕	60.0			N7/0灰白色	13C第4~14C中頃	
2	A	32	19	SD02	土師器	甕	15.0			10YR8/2灰白色		
3	A	32	19	SD02	土師器	甕	13.4			10YR7/2にぶい黄橙色	外面漆付着	
4	A	32	19	SD02	弥生土器	甕	14.4			10YR8/2灰白色	弥生中期 東日本系?	
5	A	32	19	SD02	弥生土器	壺	12.3			10YR8/3浅黄橙色	弥生中期	
6	A	32	20	SD02	弥生土器			5.4		7.5YR8/2灰白色	弥生中期	
7	A	32	20	SD02	弥生土器			7.4		7.5YR8/2灰白色	弥生中期 外面漆付着	
8	A	45	30	SD03	弥生土器	壺	11.4			10YR8/2灰白色	弥生中期	
9	A	43	28	SD03	須恵器	杯A		7.4		2.5Y7/1灰白色		
10	A	46	26	SD03	須恵器	杯	12.8			2.5Y7/1灰白色		
11	A	46	26	SD03	珠調	擂鉢	41.6			2.5Y7/2灰黄色		
12	A	47	30	SD03	珠調	大型	57.0			N6/0灰色		
13	A	46	26	SD03	珠調			11.8		10YR8/3浅黄橙色	焼成不良	
14	A	26	25	SK01	土師器	甕	14.4			2.5Y7/1灰白色		
15	A	26	25	SK01	弥生土器	甕	19.4			10YR7/1灰白色		
16	A	23	25	SK02	弥生土器			7.0		10YR8/2灰白色		
17	A	43	17	SK21	弥生土器			8.0		10YR7/3にぶい黄橙色		
18	A	43	17	SK21	弥生土器	壺	18.0			2.5Y6/1灰灰色	弥生中期	
19	A	43	17	SK21	弥生土器	甕	19.4			10YR8/2灰白色	弥生中期 外面漆付着	
20	A	43	17	SK21	弥生土器	甕	27.4			2.5Y8/2灰白色	弥生中期 外面漆付着	
21	A	43	17	SK21	弥生土器	鉢?	18.6			10YR8/3浅黄橙色	弥生中期	
22	A	40	30	SK25	土師器	鍋				2.5Y7/2灰黄色	把手	
23	A	40	30	SK25	中世土師器	皿	10.9			10YR8/2灰白色		
24	A	37	32	SK26	弥生土器	壺	7.8			10YR8/2灰白色		
25	A	37	32	SK26	弥生土器?	壺	26.6			10YR8/2灰白色	弥生中期	
26	A	38	30	SK42	中世土師器	皿	7.0	2.6	1.5	10YR7/2にぶい黄橙色		
27	A	38	27		2層	中世土師器	皿	10.4	7.0	1.7	7.5YR8/3浅黄橙色	
28	A	38	32		3層	弥生土器			4.6		10YR8/1灰白色	
29	A	44	26		3層	弥生土器			5.4		2.5Y7/1灰白色	
30	B	7	25	SD04	須恵器	杯A	11.0	7.0	3.1	10YR6/1褐色		

第2表 遺物観察表

番号	地区名	座標 X Y	遺物番号	出土層位	種別	器種 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	備考
31	B	7 25	SD04		須恵器	杯A	12.0	4.6	3.7	7.5Y7/1灰白色	
32	B	7 25	SD04		須恵器	杯A		8.8		2.5Y8/2灰白色	焼成不良
33	B	7 25	SD04		須恵器	杯盃	15.7		2.4	10YR7/1灰白色	
34	B	7 25	SD04		須恵器	杯盃	17.6		3.7	5Y7/1灰白色	
35	B	4 25	SD04		須恵器	小盤蓋	6.0		5.9	N6/0灰色	7C當平?
36	B	8 23	SD04		須恵器	長盤蓋				10YR6/1褐灰色	自然釉付着
37	B	7 25	SD04		須恵器	瓶		8.0		2.5Y7/1灰白色	
38	B	4 25	SD04		弥生土器	甕	21.4			10YR8/2灰白色	弥生中期
39	B	7 25	SD04		弥生土器				5.8	10YR8/1灰白色	
40	B	7 25	SD04		中世土器	甕	10.0		3.0	2.5Y7/2灰黃色	内外面炭化物付着
41	B	17 15	SD05		須恵器	杯B		9.4		2.5Y7/1灰白色	
42	B	17 17	SD05		須恵器	瓶		9.0		2.5Y7/2灰黃色	
43	B	17 15	SD05		珠陶			15.2		10YR6/1褐灰色	
44	B	10 7	SD05		珠陶	壺鉢	28.0			N6/0灰色	
45	B	5 19	SD12		須恵器	杯A	12.4	8.6	2.7	10Y7/1灰白色	
46	B	5 18	SK45		弥生土器			6.0		10YR8/3浅黄褐色	
47	B	5 18	SK45		弥生土器			6.2		10YR7/3にぶい黄褐色	
48	B	5 18	SK45		弥生土器			6.2		10YR7/2にぶい黄褐色	
49	B	5 18	SK45		弥生土器	甕	16.4			7.5YR7/4にぶい褐色	弥生中期
50	B	5 18	SK45		弥生土器	甕	14.8			10YR7/2にぶい黄褐色	弥生中期
51	B	5 18	SK45		弥生土器	甕	17.8			10YR8/2灰白色	弥生中期
52	B	5 18	SK45		弥生土器	甕	16.4		10.4	2.5Y8/2灰白色	弥生中期
53	B	10 19		2層	須恵器	杯A	11.0	7.0	2.9	10YR7/2にぶい黄褐色	
54	B	10 19		2層	須恵器	杯A	12.0	8.0	2.7	5Y7/1灰白色	
55	B	7 13		2層	須恵器	杯A		9.8		7.5Y7/1灰白色	
56	B	8 28		2層	須恵器	甕	11.5			2.5Y7/1灰白色	
57	B	7 13		2層	須恵器	杯B	10.4	7.0	3.9	N7/0灰白色	
58	B	11 10		2層	須恵器	杯B		9.0		10YR7/2にぶい黄褐色	
59	B	7 30		2層	須恵器	杯B		8.8		10YR7/1灰白色	
60	B	10 13		2層	須恵器	杯B	16.0	10.3	4.2	N7/0灰白色	8C第2

第3表 遺物観察表

番号	地区名	座標		遺構番号	出土層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	備考
		X	Y									
61	B	7	30		2層	須恵器	杯盤	17.0			5Y7/1灰白色	
62	B	7	30		2層	須恵器	壺				2.5Y7/1灰白色	自然釉付着
63	B	11	10		2層	糞洞	擂鉢	31.0			N5/0灰色	13C第4~14C中頃
64	B	5	25		3層	石製品	石鎌					円基式
65	B	10	19		3層	石製品	石斧					磨製石斧 蛇紋岩
66	B	5	19		3層	弥生土器	壺	14.6			10YR8/2灰白色	弥生中期
67	B	7	13		3層	弥生土器	壺	16.0			10YR8/1灰白色	弥生中期
68	B	7	30		3層	弥生土器	壺	18.0			2.5Y6/1黄灰色	弥生中期
69	B	5	19		3層		甕	12.0			10YR8/2灰白色	
70	B	5	19		3層		鉢	18.6			2.5Y5/1黄灰色	
71	B	5	19		3層	弥生土器	甕	20.0			10YR7/3にぶい黄橙色	弥生中期
72	B	5	19		3層	弥生土器	甕	19.4			10YR8/2灰白色	弥生中期
73	B	5	19		3層	弥生土器	甕	19.6			2.5Y8/2灰白色	弥生中期
74	B	15	13		3層	土師器	甕	18.0			10YR7/2にぶい黄橙色	
75	B	5	19		3層	土師器	甕	20.0			10YR8/2灰白色	
76	B	7	13		3層	土師器	甕	22.0			10YR7/2にぶい黄橙色	
77	B	4	14		3層	弥生土器			4.6		2.5Y8/3淡黄色	
78	B	5	19		3層	弥生土器			5.6		2.5Y7/3浅黄色	
79	B	7	30		3層	弥生土器			4.4		2.5Y8/2灰白色	
80	B	5	19		3層	弥生土器			4.8		2.5Y8/2灰白色	
81	B	5	25		3層	弥生土器			6.4		10YR7/3にぶい黄橙色	
82	B	10	13		3層	弥生土器			5.4		10YR8/1灰白色	
83	B	5	19		3層	弥生土器			8.2		2.5Y8/2灰白色	
84	B	10	13		3層	弥生土器			7.0		10YR8/1灰白色	
85	B	5	25		3層	弥生土器			7.2		2.5Y8/2灰白色	
86	B	10	13		3層	弥生土器			6.0		10YR8/2灰白色	
87	B	5	19		3層	弥生土器			6.6		10YR6/1褐色	

写真図版



図版1



1.遺構全景〔A地区〕  
(西から)



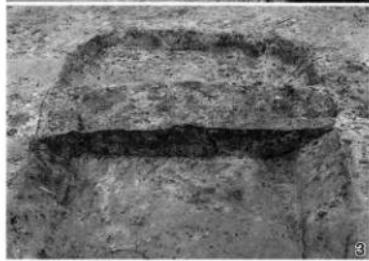
2.遺構全景〔B地区〕  
(北から)

図版 2

1.溝SD01B-B' [A地区]  
(南から)



3.溝SD02A-A' [A地区]  
(南から)



5.溝SD03B-B' [A地区]  
(東から)



7.土坑SK05 [A地区]  
(南から)

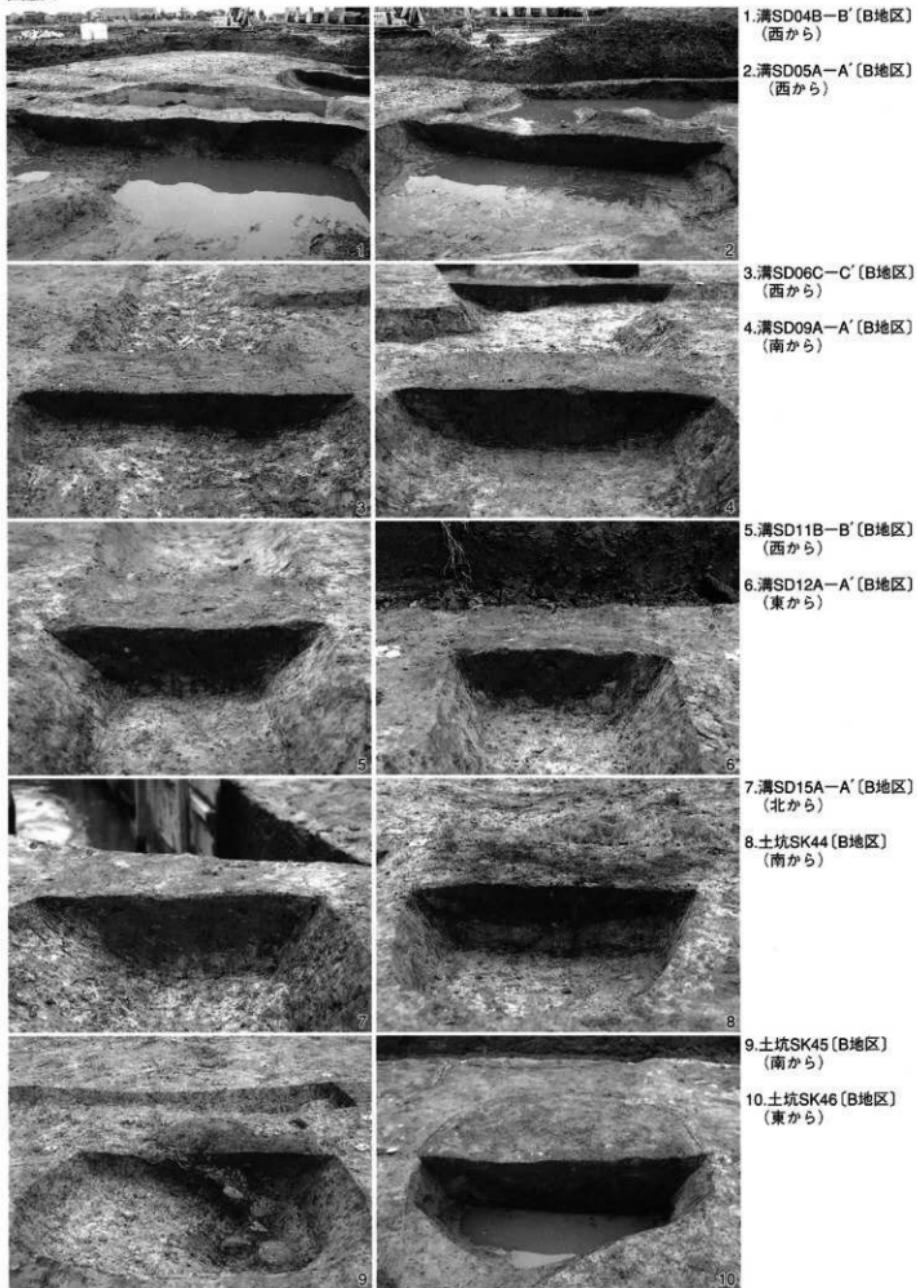


9.土坑SK26 [A地区]  
(南から)



10.土坑SK29 [A地区]  
(南から)

図版 3



出土遺物  
土器(A地区)  
SD02 SD03 SK02  
SK21



5



7



18



16



12

図版 5

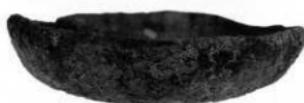
出土遺物  
土器・石製品〔B地区〕  
SD04 SK45 包含層



35



34



40



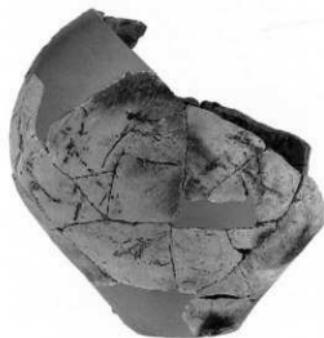
48



51



50



52



66



67



64



65



68



65

# 報告書抄録

ふりがな	さんか・ほんかいほついせき はくつちょうさほうこく						
書名	三ヶ・本開発遺跡 発掘調査報告						
著者名							
編著者名	田中 明						
編集機関	大島町教育委員会						
所在地	〒939-0292 富山県射水郡大島町小島703 TEL0766-52-3854						
発行年月日	西暦2005年 3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
三ヶ・本開発遺跡	富山県射水郡大島町本開発	16382	384026	36度 43分 26秒	137度 5分 15秒 平成15年度 2003.11.04~ 2003.12.18	1,000m <sup>2</sup>	民間大規模商業開発事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項		
三ヶ・本開発遺跡	集落跡	弥生時代		弥生土器・石鐵・磨製石斧			
		古墳時代	土坑	土師器			
		古代		土師器・須恵器			
		中世	溝・土坑	珠洲・中世土師器			
		近世以降	溝・土坑	肥前陶磁・越中瀬戸			

富山県射水郡大島町

## 三ヶ・本開発遺跡 発掘調査報告

2005(平成17)年3月31日 発行

編集・発行 大島町教育委員会

〒939-0292 富山県射水郡大島町小島703 TEL0766-52-3854

印 刷 北日本印刷株式会社

〒930-0094 富山県富山市安住町7-36 TEL076-432-2126

